

慶應義塾大学大学院 社会学研究科 学位論文の評価基準

修士課程

項目	社会学専攻	心理学専攻	教育学専攻
学位論文が満たすべき水準	専攻する研究分野（社会学、文化人類学／民俗学、コミュニケーション／マスコミュニケーション研究、社会心理学）に関する高度な専門的知識に基づいて研究がなされていること。理論・学説研究では、論理が正確かつ一貫して構成され、新たな知見を提供できていること。データを用いた研究では、研究倫理や法令を遵守したうえで適切な方法でデータが収集され、正確かつ妥当な分析が行われていること。専攻する分野にかかわらず、論文が当該の分野の研究者コミュニティにおいて学術的な貢献を認められる水準であること。	心理学および関連諸領域における高度な専門的知識と、実験、調査、観察等の実証的研究技法に基づき、独自の研究課題を論理的・客観的に追究していること。先行研究の検討を通じて得られた仮説を適切な手法で検証し、心理学の理論的発展や実践的課題の解決に寄与する知見を提示していることを要する。	教育学に関する高度な専門的知識と、理論的あるいは実証的な研究技法に基づき、教育事象に対する深い洞察をもって研究を遂行していること。課題設定から結論に至るまでの一貫した論理性を備え、先行研究の批判的検討を通じて学際的・社会的に意義のある成果を得ていることを要する。
審査委員の体制	修士論文の審査委員は3名とし、内2名は社会学研究科委員、残り1名は社会学研究科委員または塾内の教員（過去に社研委員だった教員等を含む）とし、客観性と専門性を確保する。		
審査の方法	修士論文の審査は、論文提出後、論文内容及び関連分野に関する質疑応答を行う口頭試問（最終試験）を実施する。最終的な合否は、これらの審査結果に基づき、研究科委員会にて最終承認を得る。		
評価項目	以下の5つの評価が基準以上であることを確認する。 (A)研究テーマの設定が専攻する分野の先行研究の蓄積を踏まえて適切になされており、研究の目的と意義が明確に提示されていること。 (B)採用された調査法やデータ分析・資料分析の手	心理学的な背景に基づいた問題の所在が論理的に説明され、検証可能な具体的な研究課題が設定されているかを重視する。審査においては、実験計画や調査設計、および統計的処理を中心とした分析手法が高度な専門的水準で遂行されているか、またその結果から導	教育上の諸課題や理論的関心が明確に定義され、教育学の学術的文脈において適切な研究課題が設定されているかを評価する。研究方法については、理論的考察または実証的分析が精密かつ説得力をもって展開されているか、また関連文献の渉猟と引用が適切に行わ

	<p>法が研究課題に対して妥当かつ適切なものであり、それらの分析および考察が論理的かつ妥当なものであること。</p> <p>(C)論文全体が学術的なルールに従い論理整合的に構成されていること。</p> <p>(D)導き出された結論が当該分野の発展に貢献し今後の展開可能性を有していること。</p> <p>(E)研究遂行の全過程において研究倫理が遵守されていること。</p>	<p>き出された考察がデータに基づき客観的かつ妥当になされているかを確認する。あわせて、論文が体系的かつ明晰な表現で構成されていること、心理学の学術的発展に資する有意義な結論が得られていること、および研究対象者への配慮を含む研究倫理が厳格に保たれているかを評価の基準とする。</p>	<p>れているかを確認する。さらに、論文が論理的に首尾一貫した構造を持ち、教育理論の精緻化や教育現場の理解に資する独自の知見を提示できているか、また広い視野から教育の今日的意義を捉えられているか、研究活動における倫理性や法令遵守が徹底されているかを総合的に審査する。</p>
--	--	---	---

後期博士課程

項目	社会学専攻	心理学専攻	教育学専攻
学位論文が満たすべき水準	専攻する分野（社会学、文化人類学／民俗学、コミュニケーション／マスコミュニケーション研究、社会心理学）における専門的な知識を背景に、卓越した学術的価値と獨創性を有する研究成果であること。自立した研究者として、専門的な知識と高度な調査・分析能力を駆使して研究課題にとりくみ、研究者コミュニティに大きく寄与する水準であること。	心理学の専門領域において国際的な通用性を備えた高度な研究能力を証明し、獨創的な視点から斯学の理論的・実証的基盤を大きく進展させる成果であること。学術雑誌への掲載実績等により、その卓越した学術的価値が客観的に認められる水準であることを要する。	教育学の高度な専門知識と洗練された研究技法を駆使し、自ら先駆的な課題を設定・完遂する能力を有すること。学際的な広がりを持つ獨創的な知見を提示し、将来にわたり社会的・国際的な教育研究の発展にリーダーシップを発揮できる卓越した成果であることを要する。
審査委員の体制	博士論文の審査は、当該研究科の専任教員から選出された主査1名、副査2名以上によって構成された審査委員が行う。副査のうち1名以上は、研究科外の教員または学外の有識者を含めることを原則とし、客観性と専門性を確保する。		
審査の方法	博士論文の審査は、論文提出後、審査委員が予備審査を最大3回まで実施する。予備審査の合格後、研究計画書承認日から3年後の学期末日までに博士論文を提出した者に対しては、論文内容及び関連分野に関する発表を行う公開審査会を実施する。 最終的な合否は、これらの審査結果に基づき、研究科委員会にて最終承認を得る。		
評価項目	以下の5つの能力が基準以上であることを確認する。 (A)当該研究分野の先行研究の動向と課題を正確かつ的確に把握し、自らの研究テーマを設定しうる課題設定能力。 (B)既存学説の検討や理論構築において正確かつ論理的な分析・理論化を行いうる論理的思考能力。 (C)適切な方法論を用いてデータを分析し考察を行いうる分析能力。 (D)論文全体の構成の完全性、研究者コミュニティへの貢献、および研究倫理の遵守状況。	研究の獨創性と新規性が、国際的な研究動向に照らして明確に示されているかを重視する。審査では、実験や調査の設計、および高度なデータ解析が高い精度と客観性をもって遂行されているか、また得られた知見が心理学の既存のパラダイムに対してどのような本質的貢献をもたらすかを厳格に評価する。また、論文全体の論理構成が卓越しており、一つの体系的な学術的成果として完結していること、筆頭著者としての発表実績等により専門家集団から高い評価を得ていること、および最高度の研究	未踏の教育事象や理論的課題に対し、獨創的かつ説得力のある問題提起がなされているかを評価の根幹とする。高度な理論的考察や複雑な実証的分析が、論理的厳密さをもって展開されているか、またその成果が教育学のみならず関連諸科学に対しても新たな視座を提供するものであるかを確認する。加えて、論文が膨大な知見を整合的に組織化した高い完成度を有していること、自立した研究者としての高度な資質と学術的誠実さが認められること、および国際的な発信力や社会への貢献可能性を十分に

	(E)論文の内容が査読付き 学術誌への掲載等を通じて 既に高い外部評価を得てい るか、あるいはそれに匹敵 する国際的・学際的な通用 性を有しているか、といっ た研究分野全体への貢献。	倫理が遵守されていること を基準とする。	示していることを総合的に 審査する。
--	---	-------------------------	-----------------------

以上